

イギリス・ヨークシャー・デイル国立公園 – ファウンテンズ・アビー

会員 石岡 卓二

イギリスは大きく4つの地域に分けられ、その中の最も大きい地域がイングランドと呼ばれています。その北部にイギリス最大の国立公園、ヨークシャー・デイルがあります。その公園の西端に沿ってリーズとカーライルを結ぶセトル・カーライル鉄道が走っています。

1) 列車

この鉄道線の南はリーズが始発で、座席指定も可能なようですが、2両編成の列車は始発なら座れそうです。途中のスキプトンまでなら、列車編成も長く本数も多いようですが、カーライルまで行こうとすると、平日は7往復、日曜はなんと3往復です。運が良いと区間限定ですが、車内販売があります。無人駅も多いことから乗車券の車内購入が可能で、多くの乗客が利用しています。トイレが付いています。発車10分前ぐらいに戸を開いて乗客を車内に入れてくれます。



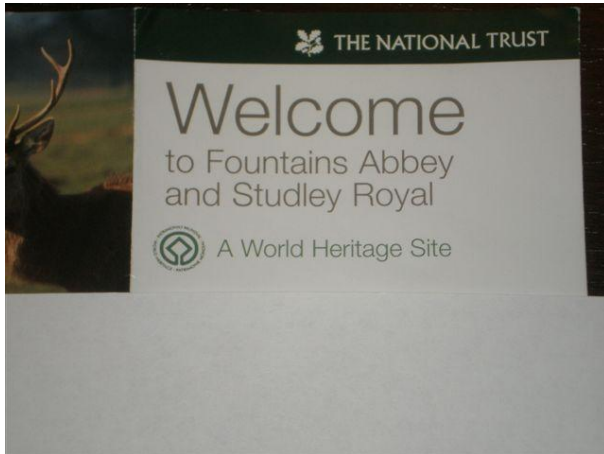
2) セトル・カーライル鉄道沿線風景



人家らしき建物があるのはリーズ・セトル間。セトルからカーライル間は駅舎以外には駅を離れると建物はあまり見られません。添付の写真はカーライル：アーマスウェイト間のものですが、アップルビーからリブルヘッド間は大雑把にはこんな風景で、最も多いのがヒツジ、次がウシ、3番目がウマです。この季節は生の草を食べていますが、貯える草は収穫後、丸めて乾燥後、プラスチックの袋に入れ、貯蔵します（サイロはありません。）



番外) この場所はカーライルからハドリアヌスの城壁に向かう途中ですが、せとる・カーライル鉄道沿線でも極めて類似の風景が見られます。耳に入る音は、傍を通過する車、草を収穫する機械のエンジン音のみです。



この公園の北東部の端に表題にしたファウンテンズ・アビー（現地表示 Fountains Abbey）があります。最寄の町は Ripon となっていますが、ここには鉄道は来ていず、バスの乗り継ぎになります。今回はヨークから車で行きました（約1時間。）

3) アビー（修道院）

現存する12世紀に建てられたこの修道院は、外枠の石壁（部分的には屋根も）、塔（最も目立つ）、土台が残っています。装飾はほとんどなく、高い天井が目を引きます。湿度が低いせいかコケは生えていません。どこから撮っても絵になりますので、2枚添付します。



4) 庭

アビーの脇を流れる川に沿って歩くと手入れの行き届いた庭にでます。色のある花はほとんど見えませんが、彫刻に加えて、水、木、芝生のデザインで見せています。流れの下の方には白鳥もいます。



5) 教会 (St. Mary Church)



アビー内にはもちろん教会はありますが、この敷地の高台にはもう一つ、この教会もあります。

6) 粉挽き小屋

小さな流れを引き込んで、動力源として粉を挽いていたようです。使用していた道具が内部に展示してあります。

